

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000986		
法人名	ハピレ株式会社		
事業所名	あすなろの家 1F あやめ		
所在地	小樽市幸2丁目2番3号		
自己評価作成日	平成25年8月30日	評価結果市町村受理日	平成26年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境に恵まれ、中庭に畑があり新鮮な野菜を入居者と一緒に収穫し、食事に利用しています。また小動物(ウサギ・犬)を飼い、入居者と餌やりなどをし、楽しみの場としています。2ヶ月に1度、音楽療法を取り入れ楽器等に触れ合いながら楽しんで頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tue&JigyosyoCd=0172000986-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 12 月 17 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは緑豊かな高台の新興住宅街に位置し、眺めも良く四季折々の風情が楽しめる環境にあります。敷地内には系列のグループホームが隣接し、当ホームにも小規模多機能事業所が併設されており、互いに連携し交流を図っています。介護事業に熱意を持つ運営者の姿勢が職員のケアサービスに反映されており、「ゆっくり、ゆったり」の理念の具現化に職員は一丸となり取り組んでいます。利用者は犬やウサギを飼育して触れ合いの中で癒され、家庭菜園では作物の成長と収穫の喜びを味わっています。定期的に音楽療法も取り入れ、歌を唄い、楽器でリズムを取る事で気分は高揚し笑顔が溢れており、このことは家族からも喜ばれています。職員は、「身体拘束防止」「調理・農業」「研修」「地域密着ネットワーク」の委員会に属しながらホームの課題に取り組み、ケアサービスの質を高めるために日々研鑽に励んでいます。ホーム主催の「あすなろ祭り」には多くの地域住民の参加を頂き、「あすなろ農園」で収穫したジャガイモの販売も喜ばれるなど地域住民との交流も深まり信頼関係が築かれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

Ⅴ及び外部評価結果

評価面	自己評価	外部評価	項目			
			自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1		<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>フロアーや休憩室等に理念を貼り、いつでも振り替えるようにしています。</p>	<p>開設時に作成した理念を基に、地域密着型サービスを踏まえ改めて全職員で考え作り上げています。月1度のフロアーミーティングや2ヵ月毎に行う内部研修時に話し合い、理念の具現化に向けて理解を深めながら職員間で共有を図り、実践に繋げています。</p>	
2	2		<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内の行事(資源回収・お祭り)に参加したり、ホームの行事に参加をして頂いたりしています。また、ホームで小動物を飼育しているので、中庭にて挨拶を交わしたりしています。</p>	<p>祭りや資源回収などの町内会行事に参加しています。また、ホーム主催の「あすなる祭り」では多くの地域住民の参加を頂いています。2ヵ月毎の音楽療法や年1回のマジックショーなどのボランティアも受け入れ、ホームで収穫した新鮮野菜の直売所を設置して地域住民に喜ばれるなど地域との交流を深めています。</p>	
3			<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議を通し、町内・老人会会長様に地域の方々の状況を聞き状況に合った支援を行っています。</p>		
4	3		<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホーム内の行事報告・研修の内容の報告・ヒヤリハット・事故報告書の内訳等を報告し、意見を頂き今後のサービスに活かすよう努めています。</p>	<p>併設のあすなるの杜、隣接のあすなると合同で定期的に開催し、運営や利用者の状況、行事案内、防災訓練について話し合い、意見や要望を汲み取り運営に活かしています。会議には多くのメンバーがリストに挙げられていますが、参加者が毎回少ないのが実情となっています。</p>	<p>地域の理解と支援を得るためには、多くのメンバーが積極的に関わられる様に働きかけることを期待します。また、家族にも運営推進会議の意義を伝え、意見や苦情を表せる機会や場であることを繰り返し説明し、多くの参加を頂ける様に働きかけることを期待します。</p>
5	4		<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>ホームで発行している「あすなる便り」を毎月担当者に届け、ホーム内の様子を報告しています。また生活受給者に関しては、その都度必要な内容を連絡しています。</p>	<p>介護保険課には毎月「あすなる便り」を届ける際にホームの状況を伝えています。案件が発生した場合には介護保険課や生活支援課の担当者と相談するなど解決に向けての協力関係を築いています。</p>	
6	5		<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束・虐待防止委員会を設け、委員会での話の内容をフロアーで話し合い、拘束・虐待のないケアに努めています。</p>	<p>マニュアルを整備し、身体拘束防止委員会を毎月開催して話し合った内容は議事録にまとめて職員に回覧しています。2ヵ月毎に行う研修会やフロアーミーティングなどで身体拘束の弊害について勉強会を行っています。外部研修にも参加し、情報を共有して理解を深めています。フロアー内の入り口には鈴を付けて出入りを把握し、玄関は夜間のみ施錠しています。</p>	
7			<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修等で学んだ事を委員会にて話し合い、委員を通してスタッフに周知し、虐待防止に努めています。</p>		

評価面	自己評価	外部評価	項目		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		研修に参加する機会を設けたり、入居者の中に後見人が付いている方がおり、直接担当者に相談して頂いています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		入居相談時、本人・家族等に少なくとも2回は面談するようにし、不安等について話し合っています。また不安や疑問等をその都度電話等でも対応させて頂いています。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		家族来訪時、意見・要望を聞き、その内容を来訪日誌に書きとめ、スタッフ全員が意見・要望を把握できるようにしています。	家族の来訪時には積極的に関わり、意見や要望などを伺う様に心掛けています。また、内容は来訪日誌に記載し、職員間で情報を共有しています。遠方の家族には電話で暮らしぶりを知らせたり、変化があった場合は、毎月発行のあすなろ便りの通信欄を活用し状況を報告しています。行事内容についてアンケートを取るなど意見要望等の把握に努めています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		主任会議・管理者会議・フロアー会議を各1回設け、スタッフの意見を聞き入れるようにしています。	日々の申し送りや毎月のフロアー会議、主任会議、管理者会議にて、職員からの意見や提案について話し合い、実現に向けて取り組んでいます。休憩室の棚の取り付けや駐車場の拡張、自動車購入など要望が反映されています。職員は身体拘束防止・研修・地域密着ネットワーク・調理・農業などの役員をそれぞれに担い、運営に参加しています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		個々の評価をもとに、必要であれば個々にヒヤリングを行い、向上心を持って働けるように努めています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		内部研修を2ヶ月に1度行うと共に、外部研修はその都度希望者を募ったり指名等をし、できる限り参加に努めています。研修参加者は内部研修で内容や感想を発表し、他のスタッフも周知するよう努めています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		小樽市認知症高齢者グループホーム連絡協議会主催の相互訪問研修等に参加し交流の場を設けています。		

評価面	自己評価	外部評価	項目		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報（フェイスシート・病歴等）本人の知り得た情報を把握し、各スタッフが情報を共有し、不安がある場合には早急に対応できるよう努めています。また、新たな不安や要望はないか生活の中で察知し、聞き入れる時間を作るよう心がけています。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせの段階で、困っている事、不安に思っている事を詳しく聞き、それに対し家族と一緒に考え協力を得ながら信頼関係を築くよう努めています。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望を聞きながら、必要な支援を考え話し合い、その方に合った支援が出来るように努めています。ホーム内だけでなく関連施設の活用も行っています。			
18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事（掃除・縫い物・調理の一部）を手伝って頂き、ホームは生活の場でスタッフも含めお互い補助し支え合って暮らしています。			
19	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時、居室にてゆっくりして頂いています。また本人の近況を詳しく伝え、家族と共に本人の支援が出来るよう努めています。			
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人等の訪問時は、居室でゆっくり過ごして頂いています。電話・手紙の取り次ぎも随時行っています。また外出時に馴染みの場所を通る時は声掛けし話題にしています。	友人の来訪時にはお茶をもてなし寛いで頂いています。利用者の要望で懐かしい場所を車で通ったり、買い物や病院見舞いなどには職員が同行し支援しています。理美容院や自宅訪問、外食などは家族の協力を得て、馴染みの関係を断ち切らない支援に努めています。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりは、様子を見ながらスタッフが間に入り、行き違いなど関係がこじれないよう努めています。			

評価面	自己評価	外部評価	項目		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も病院等に面会に出向き、状況を把握するよう努めています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の様子や、会話の中より本人の希望・意向を聞き入れ把握に努めています。またスタッフからの情報も集め検討しています。	職員は利用者の言葉や行動など、何気ない日常の中からも、利用者の気持ちや希望を理解する様に努めています。
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の個々の情報をまとめ、ファイルにしいつでも確認出来るようにしています。	
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りからの情報や、本人の表情・行動等を観察し現状把握に努めています。	
26	10		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞きながら、必要な支援を考え話し合い、その方に合った支援が出来るように努めています。ホーム内だけでなく関連施設・社会的資源の活用も行っています。	一部センター方式を活用したアセスメントを基に利用者や家族の意向を反映し、3ヵ月毎にモニタリングを行っています。さらに、気づきや意見を毎月のミーティング時に全職員と話し合い検討して3ヵ月の期間で見直し、介護計画を作成しています。緊急時には、随時見直しを行っています。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人・家族の意向、また状況により主治医の指示も取り入れ、本人に合ったケアプランになるよう努めています。	
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の日記に生活の様子を詳しく記録し、細かい事もスタッフ間で話し合い、情報交換し次のケアプランに活かせるよう努めています。	
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事(廃品回収・お祭り・七夕等)に参加させて頂いています。	
30	11		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望の病院に通っています。また新たに受診する際は家族にも相談をし、決めさせてもらい、受診後に診察結果を報告しています。	かかりつけ医の受診は、ほとんど職員が同行支援していますが、通常は2週に1回のペースで往診を受けています。歯科医も希望により、随時往診を受けています。他科診療の場合は本人、家族と相談して決めています。受診内容は家族に報告し、情報を共有しています。

評価面	自己評価	外部評価	項目		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		受診や往診時、医師に身体状況を詳しく伝え、適切な治療が出来るよう努めています。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		受診や往診時のほかに、特変の際はその都主治医に度報告し、指示を頂いています。また入院時は面会に出向き関係者と情報交換をしています。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		早い段階からホームでどこまで観れるかを家族と話し合い、今後について主治医より意見を頂くなどし方針を決めています。	重度化や終末期に向け、利用者の状態に応じて本人、家族、かかりつけ医及び職員が段階的に話し合いを行い、方針を共有しています。職員はターミナル研修を受けています。重度化や終末期に向けての対応指針は明文化していますが、同意書を得ておりません。	今後利用者の重度化や介護度の変更が考えられるので、出来るだけ早い段階で同意書を得ることを期待します。重度化や終末期のあり方について、職員間で話し合い、倫理観や質の向上を含めて意識統一を図る事を期待します。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		内部研修に取り入れ、全スタッフが対応出来るよう学ぶ機会を設けています。また各フロアに応急対応のマニュアルを置き、いつでも対応出来るようにしています。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		定期的に避難訓練を取り入れ、いつでも対応出来るよう努めています。	消防署等の指導の下に、昼・夜を想定した避難訓練を年2回実施しています。災害時備蓄品も確保し、スプリンクラーや緊急通報装置も設置され、職員は救急救命訓練も受けています。ただし、全職員が避難訓練を受けるまでには至っておりません。	地域住民の協力、参加の呼びかけに継続して取り組むとともに、火災以外にも様々な災害を想定し、全職員が確実な避難誘導を行うことが出来るよう対応策を図り、自主訓練に取り組む事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		排泄時の声掛けは、本人の耳元で伝え回りに聞こえないよう配慮しています。また更衣時や入浴等の肌を露出する介助時は、カーテンやドアを閉め対応しています。	年に1度接遇マナー講習を受け、職員教育が行われています。利用者がその人らしくあるために、意思と尊厳を大切に声かけを行い、誇りを損なわない支援に努めています。個人情報資料は事務所に適切に保管しています。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		個人に合った対応や声掛けをし、会話の中で本人の希望などが言いやすい雰囲気を中心掛けています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		スタッフ本意ではなく、入居者の立場に立ち1人1人のペースに合わせ、できる限りリラックスし1日を過ごして頂けるよう努めています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		個々の好みを把握し、その日の気候に合った服装になるよう入居者と一緒に選んだりし、清潔な身だしなみを心掛けています。		

評価面	自己評価	外部評価	項目			
			自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15		<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と共にホーム前の畑で食材の野菜を収穫し、野菜の下ごしらえをしたり、食後の下膳や食器の片づけは担当のように手伝って下さっています。また個々の好みを把握し、メニューに取り入れています。</p>	<p>献立は各ユニット別に栄養士が作成しています。利用者の嗜好を考慮しながら、あすなる農園で採れた旬の野菜も取り入れ、誕生日食や年2回のランチバイキング、外食など変化をつけて食事を楽しむ工夫をしています。食事準備なども力量に合わせ、職員と一緒にしています。</p>	
41			<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分・食事量を毎日バイタルチェック表に記入し、いつでも確認出来るようにしています。また、個々の状態を把握し、その方が食べやすい食事形態にしています。</p>		
42			<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアを欠かさず行い、夕食後は義歯洗浄剤を使用しています。</p>		
43	16		<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>必要に応じ排泄チェック表を付け、排泄の間隔を把握できるようにし、出来るだけトイレで排泄ができるよう努めています。</p>	<p>排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握した上で尊厳に配慮したさり気ない声かけでトイレ誘導を行い、自立に向けた排泄支援を行っています。布パンツ使用者も多く、極力オムツを使用しない支援に取り組んでいます。</p>	
44			<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>生活の中に体操を取り入れたり、掃除機掛け・モップ掛け等もお願いし身体を動かす機会を作っています。また水分量を確認しながら食事に食物繊維の多い食材を取り入れる等工夫しています。</p>		
45	17		<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴日は決めさせて頂いています。時間は出来るだけ本人の希望に添えるよう努めています。</p>	<p>週2回の入浴日を決めています。時間帯は本人の希望を優先しています。浴槽は3方向に介助が出来、浴室にはリフトも設置され、安全な入浴支援が行われています。浴室入口には、日替わりで入浴剤の効能が掲示されていて、檜木浴と合わせて温泉気分を楽しめる工夫が伺えます。</p>	
46			<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の生活パターンを崩さないよう心がけ、夜も安心して休めるよう支援しています。</p>		
47			<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>フロアー内に個々の薬の説明者を置き、常に確認ができるようになっています。数種類の軟膏を使用している方は、塗る箇所を薬別に書き分かりやすくしています。</p>		
48			<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の趣味・好みを把握し、本人のADLを見極めながら、お手伝いやレクリエーションを行っています。</p>		

評価面	自己評価	外部評価	項目			
			自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18		<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>家族の協力を得ながら、外の東屋での昼食会・敷地内にある畑での野菜の収穫や、動物への餌やり等行っています。また身内の方のお見舞い（病院）にも出向いたり、衣類の買い物等、外出の機会を設けています。</p>	<p>日常的には、散歩や畑作業、飼っているウサギや犬などに触れて世話をしたり、東屋でのお茶やランチを楽しむなど、閉じこもらない支援に努めています。季節の良い時期には、ドライブがてら外食したり、買い物に出かけるなど気分転換を図っています。墓参りや温泉、外食など家族の協力を得て、個別支援にも取り組んでいます。</p>	
50			<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の希望や本人管理可能な方以外は事務所預かりにさせてもらっています。</p>		
51			<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人に届いた郵便物に関しては家族に確認し本人に手渡している方もいます。また郵便物を出してほしいとの時は、希望に沿っています。携帯電話を持っている方もおかけ方を忘れた際は、その都度支援しています。またホームの電話より外部へ電話を掛けたいと希望された際も希望に添っています。</p>		
52	19		<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロア内に季節に合った飾り付けを工夫しています。また落ち着いて生活ができるよう温度調整や空間作りにも努めています。テレビの音量も不快にならないよう気を付けています。</p>	<p>高台に建っているホームは各部屋窓からの景色が雄大で四季折々の美しさを楽しめます。リビングは明るく、キッチン是对面式で使い易く、見守りにも適しています。食卓テーブルとソファコーナーが配置され、それぞれに居心地良く寛げる空間が用意されています。運営者が拘りを持って収集した、昭和初期の家具や日用雑貨を何気なく飾り、利用者に懐かしさと家庭的な安心感を抱かせる雰囲気作りに努めています。</p>	
53			<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファ位置等を工夫し、一人になれたり仲の良い方同士並んで話ができるようにしています。</p>		
54	20		<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時、使い慣れた家具や大切にしている物を持ってきて頂き、本人が少しでも落ち着いて生活が送れるよう支援しています。</p>	<p>居室を示す名札や暖簾は職員が利用者のイメージを考慮して準備しています。利用者の意向や家族の協力の下に、馴染みの家具やベット、テレビ、仏壇などが持ち込まれ、壁には絵や写真が飾られて、利用者それぞれの個性が醸し出され、落ち着ける雰囲気となっています。</p>	
55			<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々のADLや趣味・好みを把握し、少しでも自立した生活が送れるよう努めています。</p>		